

令和5年8月3日

令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校、学校関係者評価委員会は、令和4年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

令和5年8月3日

2. 学校関係者評価委員

江口 美貴 氏 (株式会社 ヴルーマン 取締役会長)
高野 芳樹 氏 (株式会社 T A T 代表取締役社長) (代理参加)
佐藤 祐也 氏 (株式会社 J T B 神戸支店 営業課長 所長)
八東 広宣 氏 (東武トップツアーズ株式会社 関西支社 大阪法人事業部 副事業部長)
森山 昭弘 氏 (株式会社 T E I 支店長)
川喜多美由紀 氏 (株式会社 阪急阪神ホテルズ 運営管理本部 人材開発部 課長)

(事務局)

宮路 信美 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校 校長)
藤川 宏明 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
観光・IT・スポーツ教務部部長)
山本 省二 (大原学園 関西圏就職本部)
藤井 智香 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
ブライダルビューティー課 課長)
梶原 賢二 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
外語観光課 課長代理)

令和4年度自己点検・評価の概要

大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校の2022年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成を行うことができていると考える。

さらに、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行われており、財務状況も安定している。

昨年度は、学校関係者評価委員の皆様より、「教員への資質向上について」「留学生の相談体制について」「学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制」の3点に関してご助言を頂戴し、重点的に改善に努めてきた。

将来像を意識した幅広い業界・分野への就職活動については、教職員による担当学生のニーズの把握力を高めており、また多くの有効求人が存在する時期と学生の就職意識はトレードオフの関係性もあり、複数担当制により学生の成長力を高められる体制を整え、対応力の強化を図っている。留学生に対する日本語以外の指導に関しては、就職の授業を通して、各種マナーの指導や日本独特の各種ルールの説明を実施した。また、一部掲示物は複数か国語を活用している。なお、日本語学科では2022年度には新型コロナウイルス感染症の社会への影響が小さくなり、入学を希望していた生徒はみな来日することができた。

令和5年度 重点目標1

作品及び技術等の発表における成果を把握しているか

<現状・達成指標>

達成度合：70%

制作された作品に対しては専門家により評価を頂いている。

また、技術については、チェックシートを用いた効果測定を実施している。

卒業研究においては、成績評価を企業の担当者や現場のプロの方に依頼し、一定の評価を得ている。

<具体的方策>

評価が主観にならないように評価基準となるチェックシートのさらなる充実を図る。作品制作、技術評価を伴わない学科等については該当しない。

<学校関係者の評価・提言>

(江口委員) やはり、指導で大切なのは「心配り」です。

お花づくりのチェックポイントとして考えるのであれば「季節に合わせたお花のケア」なども重要な項目です。本来の作成する技術以外にも、暑さやお花を運ぶ際交通環境等、外的要因によるアクシデントというものもあります。水を入れる量一つとっても状況によって異なります。そのようなことに心配りで気が付くような項目をチェックする目線が大切だと感じます。具体的なチェックシートの作成については、授業担当の教員とも相談を進めていただいて問題ありません。

(高野委員) ネイルコンテストのチェックポイントについては、作品だけではなく作品に対してのメッセージやコメントも重要視される。テーマに対しての作品のデザインやコメントの統一感が大切。また、作成したチップだけではなくそれを撮影する際の工夫、見え方も見られるポイントです。作品そのものは芸術的な観点で判断する部分もありますが、上記のようなポイントは重要です。採点の方法は切り捨て方式で最終の2つの候補が残った際、技術とアートどちらを優先するかとなった時は技術で判定をします。今後ネイル協会等でも何か資料がないか調べてみます。

(川喜多委員) 弊社では社内表彰において、表彰ごとに評価基準を設け、委員が審査する仕組みがある。やはりどれも評価には個人差があり、チェックシートをもとに会議を行い、意見交換の上、評価に甘辛調整を行っている。客観的評価を取り入れるのは納得感という意味で良いと考える。

(佐藤委員) 評価項目を明確にし、評価される学生が納得（理解）できるようにすることが必要と考えるので、評価基準をあらかじめ明確にできているように感じる。

(八束委員) 評価を数値化することは非常に難しいと考える。様々な分野の専門家やプロの知見を取り入れられることを推進されるのが良いと思います。各々の自己評価をコンテスト化するイベントを実施。

(森山委員) 主観を伴わない評価基準の作成は非常に興味を持った。チェックシートが完全であれば別のビジネスにも応用できるのではと考える。

令和5年度 重点目標2

留学生に対する相談体制の整備

<現状・達成指標>

日本人学生と同様に個別相談を実施している。入管手続きについても教員がサポートしており、アルバイト紹介も行っている。

日本語だけではなく、英語・ベトナム語での対応ができる体制を作成し、相談にのりやすい環境を作っている。

ネパール・ミャンマーからの留学生も増加しているため、一部の掲示文にミャンマー語も追記するなどの工夫をしている。

<具体的方策>

留学生のニーズに合わせた複数のコースで入学生を受け入れている。留学生の生活相談対応可能な教員の増員・育成が必要である。

各コースに応じたビジネスマナーや日本文化の指導をカリキュラムに取り入れるよう改定を行っていく。

<学校関係者の評価・提言>

(江口委員) 留学生も日本人よりも高いモチベーションで入学してきている場合も多い。

しかし、日本文化への理解が浅いことでこの心配りが日本人と同じレベルではできないことも多い。留学生との相談体制により信頼関係を構築し、さらに指導として文化的なことや気配りを指導できると良いのではないかと考える。

(高野委員) コロナによりサロンの外国人の受け入れは厳しくなっている。コロナの別の株を持っていないか危惧されている。直接的にインターンシップの開催を行っているわけではないが、大学コンソーシアムを利用し、インターンシップという形で大学生の留学生（主に台湾）が兵庫県内での地域の取り組みとして2カ月間体験で働いてみてその企業に対して外国人目線のアドバイスを行っている。また学生自身も日本のサービス等をその時に学び自国に持ち帰るといった側面もある。

(川喜多委員) 留学生の生活相談や手続きサポートにつき整備されている点、評価できると考える。ビジネスマナーや日本文化の指導に関して、弊社でも外国籍スタッフに対して課題あり。笑顔、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなど文化の違いで顧客に上手く伝わらないケースがある。相手の意思をくみ取る行動をとる必要がある。弊社では入社研修やフォローアップ研修で育成中。御校でもカリキュラムに取り入れるべき項目と考える。

(佐藤委員) 言語の問題に加え、文化も異なることから学生の国籍や背景、文化を受け入れる姿勢も大切と考える。そのうえで、日本文化の指導が必要と考える。

(八束委員) 学生同士でのコミュニケーションが取りやすい環境整備を充実させることをカリキュラムを通じ実施されているということで非常に良いと思う。これからますます増えて多種多様なニーズを取り込んでいかれることを期待します。

(森山委員) 特に文化の違いによるミスコミュニケーションを予知できればマルチタスク人材としての評価が得られるので良い取り組みと感じた。言語、マルチリンガルは伸びると思う。

令和5年度 重点目標3

学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか

<現状・達成指標>

達成度合：80%

実習や研修等の参加については事前に外部機関と実習内容や研修内容の打合せを行い、期間中は職員が訪問・引率し、事故やトラブルにならないように十分注意している。

<具体的方策>

実習等については実習先が異なることで、同一環境下で実習が出来ないことから、実習内容に多少ばらつきがある。

<学校関係者の評価・提言>

(江口委員) ホテル阪急インターナショナルのブライダルフェアは以前よりも回数は減っているが、開催はされている。しかし予算のかけ方が以前よりは低くなっている面もある。近しい日程では8/6に開催予定。次回は1月頃に開催予定である。数名であれば希望者の見学受入が可能である。1月の日程については、わかり次第共有するが昨今のホテル側の事情で、なんとも情報が遅い可能性がある。ホテル阪急インターナショナル様でもウェディングそのものが「儲からない商品」と考えている様子が見える。会場を貸し出すだけでなく不随業務が多く、それでいて利益がそこまで高くない。

(高野委員) インターン実習といった形はとっていないが、弊社の取り組みとしてヴィッセル神戸コラボネイルグッズやフェイスシールを開発したものをサッカーの大会で来ら

れたお子さん向けのネイル施術体験イベントなどを実施しており、そこでイベントスタッフとして参加する機会などはあります。また、海外研修やインターンシップ等の実施の際には事前の取り組みも重要である。特に自発的に取り組んだことは自分の知識としてしっかりと定着する面がある。事前に対象について調べること、また主体的に参加できる仕掛けを作ることが効果を高めるポイントである。

(川喜多委員) 実習先によって内容にばらつきがあるのは仕方なし。大切なのは実習で目標としていたことが習得できたか、実習内容の差異を把握し、それを補うものを別途提供してあげることかと考える。(既に実施済みかもですが)

(佐藤委員) 十分なサポート体制が構築されていると感じる。加えて実習前と実習後の変化、実習前の目標とそれに対する振り返りなど実感価値向上の研修内容にすればより充実すると考える。

(八束委員) 実習先をできるだけ統一することはできないか？複数の実習先をローテーションして平均化を図るのがよいのでは？

(森山委員) 当社ではインターンを受け入れており、インターン生、社員共に良い刺激になっており継続していく予定。長期でなく短期が望ましい(一週間程度)。

全体評価と総括

(学校関係者評価委員)

大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校の教育成果及び学生指導並びに学校運営の取組みについて、企業の視点から検証を行い自己評価結果は妥当であると評価いただいた。

今年度重点的に取り組む項目として「留学生に対する相談体制の整備」「作品及び技術等の発表における成果を把握しているか」「学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか」を挙げている。いずれに対しても例年通りの対応ではなく時代に合わせた対応に対する取り組みには評価をいただくと同時に、さらなるご提言を頂いた。

(事務局)

コロナ禍における影響で、留学生を取り巻く環境、就職活動のスタイル、検定試験の時期や手法等様々な影響が起きている。その中でも、学校運営、指導方法に変化を取り入れ現状に満足することなく、即戦力となる学生を育成していきたい。また、そのためにも教職員自身も専門性のみならず時代に合わせてスキルアップして行く所存である。

今回の委員会でも、学校関係者評価委員から様々なアドバイスを頂戴した。教職員一同いただいたアドバイスをしっかりと活用し、大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校運営の更なるブラッシュアップを図っていきたいと考えている。

文責 藤井 智香
梶原 賢二